ＪＲ東海労なごや

2019年9月6日　No.1150
ＪＲ東海労名古屋地方本部
発行者：　荻　野　隆　一
編集者：　教　　宣　　部

リニア中央新幹線開業はどうなる！？

リニア中央新幹線開業遅れに対する団交申し入れる

「JR東海労名古屋地本申３号」提出

会社幹部も工事の遅れに言及

記者会見で、金子社長は「静岡の工事遅れており、後の行程で取り戻すことが難しくなりつつある」「この状態が続けば開業時期に影響を及ぼしかねないと心配している」などと述べるなど、静岡県の工時遅れで2027年開業に黄信号が点灯しているが如く会見しています。

難航する静岡県との協議

一方、株主総会では、株主から、リニア工事計画の遅れについての懸念が相次ぎました。新聞報道でも明らかなように、大井川の水量減少を問題にしている静岡県との協議が難航していることに株主も不安を抱いているのです。

それに対し中央新幹線推進本部長である水野孝則取締役は「この状態が続けば開業時期に影響を及ぼしかねない」と現実を認めたが、「できる限り早くトンネル掘削に着手できるよう取り組んでいきたい」と答えるにとどまりました。

続発する工事の障害

リニア工事に伴う問題は、静岡県の大井川水量問題にとどまらず、リニア名古屋駅の用地買収問題、今年４月８日には岐阜県中津川市山口の作業用トンネルが陥没、さらには「名城非常口」掘削作業中、地下水が湧きだしたため去年１２月から工事を中断しています。

工事の遅れは工費の上昇に直結

次から次へと問題が噴出し、２０２７年のリニア中央新幹線開業が遅れる可能性が現実になってきました。

工期の遅れは、工費の上昇につながります。ただでさえ、リニア単体で利益を出すのが難しいと言われています。将来JR東海の会社経営に関わる大きな問題を社員に明らかにし不安を払拭すべきだと、私たちJR東海労は考えます。

よって、会社に対し「申３号リニア中央新幹線開業遅れに対する団交の申し入れ」を提出しました。

「申３号」

①リニア工事の進歩状況について明らかにすること。②名古屋駅西用地賠償、トンネル崩壊、非常口湧水の現状を説明すること。③静岡県工区での着工の遅れを説明すること。④工期の遅れによって経営を圧迫すること無く、社員が犠牲になることがないようにすること。

リニア工期の遅れは静岡県とJR東海のみの問題ではない

JR東海は経営を圧迫しかねない工期の遅れ問題を説明せよ!